

インみたか通信

発行： NP0法人 障害者生活支援センター インみたか

発行日：2017年8月4日

No. 41

法人のページ

人はそれを「サービス」と言うけれど

～福祉サービスを使うということ～

私は、毎日、ヘルパーを利用しながら、生活している。このヘルパーが来なければ、私はお腹を空かせて死んでしまう。人は大げさと言うかもしれないが、事実である。

食事をする、トイレに行く、風呂に入る。そこに手助けが必要だから、ヘルパーを利用する。人はそれを福祉サービスという。利用するためには、様々な手続きが必要だ。

福祉サービス？サービスと聞くと、会員だけの特別サービスとか、期間限定サービスとか、何だか得しそうな気がするけど。

私たちは決して、贅沢な暮らしを望んでいる訳でもないし、人より得したい訳でもない。

ただ、当たり前の暮らしがしたい。

そのために、計画をつくれ？普通に暮らしたい、それだけ。なのに、目標が必要。

聞き取り調査？「今日は何日ですか？」「生年月日言えますか？」

ああ。。。尋問に近い。

けれど、このいくつかの難関を通らなければ、普通の暮らしは望めない。それは当然の義務なのだろうか。無事難関を通過したとしても、私の希望通りに福祉サービスを使わせてもらえるのだろうか？いつも周りの顔をうかがっている。

社会資源を使いながら普通に暮らすことが、当たり前の社会になったのなら、私たちはどれだけ楽な気持ちで生きることができるだろう。

(障害当事者 宮城永久子)

か しょうがい しょう どう書く？ 障害？ 障がい？



(ヘルパー派遣部 コーディネーター 滝美央)

障害を「障がい」と表記している場面をよく見かけるようになりました。

「害」の字の印象の悪さやマイナスのイメージで、偏見や差別感、不快感をもつ人が少しでもいるのであれば、改められる部分から改めるべきという視点により、「障がい」とひらがな表記にすることに努めているようです。インミタかは、三鷹市がひらがな表記にしていること（下記☆参照）にならって、なんとなくひらがなを多く使ってきましたが、最近「これまでひらがなにしていた理由は？ 今後表記を変える？ 変えない？ 変えるならその理由は？」という議論もしていました。また、定期的に行っている派遣部のヘルパーを対象としたミーティングでも話題にしたところ、様々な意見があがりました。

職員の意見

- ・障害の害の字もそうだけど、「障」も辞書で調べると、「じゃまをする。さしわり」と載っている。この漢字を使うのもどうかと思う。
- ・障害という言葉が出てきたときには、悪気がなくこの表記にしたと思うけど、今の時代で考えると配慮がないと思う。
- ・ひらがな表記にすることで、「何か主張があるんだ」と読み手には伝わらと思う。漢字だとそれは伝わらない。

ヘルパーの意見

- ・障害者自身がひらがな表記を目にすることで“気にされていること”に負い目を感じてしまう人がいるかもしれない。だとすると、一般的な漢字表記のままでいいのではないかな？
- ・障害者のことを知っている人達に対しては、どちらの表記でもいいと思うが、全く知らない人が「障害者」の字を初めて見るとしたら、ひらがな表記の方がよいのではないかな？

様々な意見を受け、議論した結果、現段階の考えは・・・

「インミタかは、漢字表記の『障害』を基本とします」

その理由は、「障害とは、障害者本人の中にあるものではなく、社会や環境側に存在するもの」と考えるからです。今後インミタかが「障害」という言葉を使うときには、個人の身体や心の状態を指すのではなく、社会にある障壁や偏見のことを意味します。社会にはその字のとおり「障害」がまだ多くあり、私たちはそれを解消したり改善したりしていくために社会に働きかけていく、という姿勢を示すためにも、漢字表記にします。（相談支援センターぱぷは、三鷹市の委託事業のため、三鷹市にならって「障がい」とします。）

「障害」の表記については、様々な意見や考えがあると思います。皆さま、ご意見を是非おきかせください！！

☆参考資料＞

「障害者の害の字が、災害の害になっているのは、不適切であると長年思っており、早い段階で改めたいと思っていました。とりあえず、国の制度や一般的に流布されている制度を有効に活用していくのも大事だし、障害者の皆さんにも多様な認識がありますから、『害』の字は、ひらがな表記をするという事で市議会に提案をさせて頂きました。」

げつかん しょうがいしゃ ふくし ねん がつごう まち しょうがいしゃけいかく みたかしちょう きよはらけいこし き ぱっすい
月刊ノーマライゼーション 障害者の福祉 2005年4月号一わが町の障害者計画 三鷹市長 清原慶子氏に聞く より抜粋

津久井やまゆり園の事件から一年・・・。

法人のページ

(ぼっふ施設長：金子 洋祐 / 派遣部所長：小林 延芳)

津久井やまゆり園での事件は、障害を持つ方の支援を生業としている私たちにとって、とても衝撃的な出来事でした。

「ただあたりまえに生きていた人間が、障害者という理由だけで殺されてしまったその理不尽さ」「被害にあった障害者・家族・支援者の無念」「犯人が私たちと同じ支援者であること」私たちは深い悲しみとやり場のない怒りに包まれました。

「この感情を誰かと共有したい」「もっといろいろ話して、深く考えたい」そんな思いから、三鷹市の障害福祉団体や個人に声をかけ、意見交換を行いました。

参加者からは事件を受けての取り組みや、抱いた思いについての話などがあがりました。

同じ志や思いを抱き、活動している人たちの言葉に胸が熱くなりました。

そして意見交換の機会を重ね、私たちインミタカは共鳴頂いた障害福祉団体や個人の協力の下、この事件の教訓として、社会に対して発信することを二つ決めました。

一つは「障害者を知ってもらうこと」、もう一つは「障害のあるなしに関わらず、どんな人でもあたりまえに生きていいこと」

その発信の場の第一弾として、社会福祉法人睦月会さんのご厚意もあり、北野ハピネスセンターで行われる館祭りを利用させていただくことになりました。主なターゲットは「地域の子どもたち」です。

7月14日(金) ハピネスセンター館祭りの報告

まだ梅雨明けしていませんでしたが、暑すぎるくらいに天気がよく、子どもたちが多く参加する地域恒例の夏の行事として、盛大に行われました。

その中でインミタカは、「わくわくあそび」というコーナー名で一室お借りし、「的あて」「風船なげ」「魚つり」の3つのゲームを用意しました。

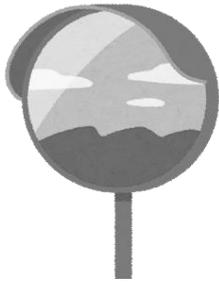
各ゲームには必ず障害者のスタッフがいて、遊びに来た子ども達と対決したり、チームを組んで一緒に作戦を考えたりすることにしました。そして、同じゲームの中で喜んだり悔しがったりという感情を共有し、「障害者も一緒に遊べるんだ」「嬉しいときは同じなんだ」「相談もできるじゃん」「おもしろいおじさんがいたな」などのあたりまえを感じてもらうことで、上記の発信したいことを伝えるという試みです。

実際には、予想以上に子どもたちの人数が多く、障害者スタッフとゆっくりコミュニケーションをとってもらうことが難しい時間帯もありましたが、ゲーム自体はどれも大変な盛り上がりで、子ども達は勿論のこと、障害者スタッフも、真剣な表情でゲームに興じていました。そしてゲームが終わった後は、みんな笑顔、そんな素敵な時間になりました。

また当日は、ハピネスセンターの入口で、来場者全員に、インミタカで作成したチラシを配っていただきました。その内容は、三鷹市在住の障害を持った人たちが、津久井やまゆり園の事件を受け、寄せてくれた声を集めたものです。イベントの性格上、チラシへの掲載は見送りましたが、中には「犯人を死刑にしてほしい」という怒りに打ち震えた声も、複数ありました。チラシは今回の通信に同封しましたので、是非ご一読ください。

誰もが暮らしやすい社会を築いていくため、インミタカでは、上記の2つのことを発信し続けていきたいと思っております。事件で犠牲となった方、傷ついたすべての方に、心よりお悔やみを申し上げます。





リレートーク「地域で生きる」

私と「地域移行」

みたかしきかんそうだんしえん (三鷹市基幹相談支援センター) せいしんほけんふくしし あめみやみき (精神保健福祉士 雨宮美貴さん)

つうしん よ みな
通信をお読みの皆さま、こんにちは。

さくねん がつ みたかししやう しゃしえんか かいせつ みたかしきかんそうだんしえん ちいきいこう
昨年4月に三鷹市障がい者支援課に開設された三鷹市基幹相談支援センターにおいて、地域移行
と地域定着を担当させていただいております。まずは、皆様にたくさんのご理解とご協力をい
ただきながら1年経過できましたことを心より感謝申し上げたいと思います。

みたかしきかんそうだんしえん しょうがいしやそうごうしえんほう さだ ちいき そうだんしえん ちゅうかく
三鷹市基幹相談支援センターは、障害者総合支援法に定められている地域の相談支援の中核を
に な きかん そうごうしえん せんもんそうだん ちいきいこう ちいきていちゃく ちいき しえんたいせい きょうか
担う機関として、①総合支援・専門相談 ②地域移行・地域定着 ③地域の支援体制の強化 ④
けんりようご ぎやくたいぼうし はしら かつどう ちいきいこう ちいきていちゃく
権利擁護・虐待防止 を、4つの柱として活動しております。地域移行と地域定着については、
ちようきかん にゆういん にゆうしょ しょう かがたが ちいきせいかつ じつげん む あんしん
長期間にわたり、入院・入所されている障がいのある方々が、地域生活の実現に向けて安心して
いっぽ ふ だ かんけいきかん れんけい しこうさくご かせ
て一歩を踏み出せるように、関係機関と連携をとりながら試行錯誤を重ねているところです。

わたし ちいきいこう で あ すうねんまえ がくせいじだい にち けんがくじっしゅう
私と「地域移行」の出会い、20数年前にさかのぼります。学生時代、たった1日の見学実習
で行った精神科病院で、初めて長期入院を余儀なくされている現状を学ぶ重要なきっかけをい
ただきました。以降、地域移行支援について、精神科病院や生活保護行政、福祉サービスの事業所
に身をおきながら、この課題に取り組み続けたいと考え今日に至っています。これまで私が、た
くさんの方々から地域移行に取り組む機会と力をいただき続けてきたように、今度は私がまだお
あ かいできていない多くの入院・入所中の方々に、これからの生活に向けて、地域での様々な機会
とあたたかい出会いをつくっていただけますよう、皆様と手を繋いでいけることができたなら心から
ねが
願っております。

～「人」と「人」との豊かな交わりの中にこそ暮らしと生き方を支える重要な要素がある～
「地域での当たり前の生活」と「希望のもてる地域」を目指して最善な環境をつくっていきま
すよう一層の創意工夫とさらなる取り組みに精一杯努力したいと思っておりますので、これからも
どうかよろしくお願いたします。

みたかしきかんそうだんしえん
三鷹市基幹相談支援センター

じゅうしょ みたかしのざき みたかしくやくしやうない
住所 三鷹市野崎1-1-1(三鷹市役所内)

でんわ ないせん
電話 0422-45-1151(内線2656) ファクス 0422-47-9577

かいじょうじかん ござん じ ぶん ごご じ げつやうび きんやうび
開所時間 午前8時30分～午後5時(月曜日～金曜日)

ただし、しゅくじつ ねんまつねんし のぞ
ただし、祝日・年末年始を除く



ねんど こうえんかい きょうりょく
2016年度 後援会へのご協力 ありがとうございました

こうえんかいひ しかくしゅとく かか とう つか
後援会費は、ヘルパーの資格取得に関わるもの等に使わせていただきました。

こんご とうほうじん ねが もう あ おんじゅん けいしやうりやく よ が たりやく
今後とも、当法人をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。50音順（敬称略、読み仮名略）

こじんじやうほう ほ ご なまえ けいさい ひか
個人情報保護のため、名前の掲載は控えさせていただきます。

こうえんかい とうほうじん
後援会は、当法人のヘルパーの
いくせい ぎやうせい
育成や行政とのかけはしなど、
はほひろ やくわり にな
幅広い役割を担っています。

■くわしくは
えぬびーおーほうじんしやうがいしやせいかつしえん
NPO法人障害者生活支援

センターインみたか内
こうえんかい
「後援会」

たんとう こばやし
(担当 小林)

でんわ
電話 0422-71-0902

ファックス 0422-24-6266

はなみ
お花見

ねんど はじ がつふつか にち ほうじん ぜんたいぎやうじ はなみ
年度が始まったばかりの4月2日(日)、法人の全体行事として花見
おこな わたし む い かしらこうえん さくら じやうたい ぶぎき
を行いました。私たちが向かった井の頭公園の桜の状態はまだ5分咲く
きこう あた ころらくびより
らいでしたが、気候も温かく、まさしく行楽日和でした。

こんかい りやうしゃ しよくいん ぎやうじ
今回は、利用者、ヘルパー、職員、といういつもの行事スタイルで
はなく、ヘルパーの家族や、以前ヘルパーをして頂いていた方、日頃

きくた たいせいこうこう せんせい せいと さんか そうぜい めい
ぼっぶのフリースペースにボランティアとして来て下さっている大成高校の先生や生徒さんたちも参加し、総勢70名
を越えるにぎやかさ。

おおにんずう
あまりの大人数のため、あらかじめ用意しておいたプログラムなんかお構いなして、皆さん近い席の人同士、
ちい わ おも おも わだい はな さ かくじも かる まわ ほお
小さな輪ができ、思い思いの話題に花を咲かせていました。各自持ってきていたアルコールも軽く回って、頬がほん
のり赤くなっている人もちらほら。あっという間の3時間でした。



みな さくら む
ところで、皆さん、メインの桜、見ていました!?

りじちやう みやぎとわ こ
(理事長 宮城永久子)

えがお べんとう た
←みづらいですが、笑顔でお弁当を食べてい
るところの写真です





がつとうか げつ じむしょ じむてき いちにち かね だいじ
○月10日(月) 事務所の事務的な一日・・・「お金は大事だよ～」

あ～、請求事務の締切日だ・・・ヘルパーが仕事でも、自動的にお金が入ってくるわけじゃないんだよなあ。みんなに書類を出してもらって、間違いはないか確認して、計算して、国や自治体に請求しないと、事業所にはお金が入ってこないんだよなあ。面倒だけど、やらないと僕の給料も払ってもらえなくなるしなあ・・・さて、やるか。

ん？予定していた時間と、書類に書いてある時間が違う。当日、延長したかな？事務所の記録を確認確認・・・う～ん、連絡はもらってないな。まずは利用者に電話してみるか。

「もしもし、合田です。元気ですか～？」「元気、元気。今度いつスナック行く？」「お金ためないとね～。ところで○月○日のヘルパー、延びた？」「あれ？どうだったかな？忘れた。ヘルパーさんにきいてみて～」「はいよ～」

このヘルパーは授業中かまな。まあ電話してみるか。「もしもし、合田です。勉強してる？」「ちゃんと学校行ってますよ。授業は聞いてないけど」「こらっ！もう学校やめて毎日ヘルパーやんな。で、○月○日の介助って、延長した？」「いや、してないはずですよ」「そう？書類だと、終わったのが予定時間より1時間遅くなってるけど」「だったら書き間違いです」「こらっ！直しておくから次は気をつけてよ～」「は～い」え～っと、これで全部そろったな。さて計算計算。

よし、できた。「中野さ～ん、計算終わったので確認してください」「はいはい」

「これ違いますよ。2時間あいてないから、2件じゃなくて1件で計算ですね」「あら、すみません」さすが数字がピッタリあうのが何より快感という中野先生。よし、移動支援の事務は終わり。

「滝さ～ん、居宅介護と重度訪問介護の請求は？」「まだです。私、やりましょうか」「やらんでよい！僕がやる！」よし、事務所の危機を未然に防いだぞ。事務が死ぬほど苦手な滝さんがやると、100万円請求するところを10万円にしちゃうかもしれないから。パソコンでパチパチパチッと・・・よっしゃ。

「小林くん、先月の数字出たよ～」「ありがとうございます・・・(暗い顔)、やっぱり去年より低いですね・・・」「そうだね～」「居宅介護と重度訪問介護のお金が、地域区分でどれくらい違うか、知ってました？武蔵野市は2級地で三鷹市は4級地だから、同じ仕事をして、事務所が武蔵野市にあるだけで、僕たちよりたくさんもらえるんですよ」「どのくらい違う？」「三鷹市で106万円だとすると、武蔵野市だと109万円ですよ！3万円あったら、何でもできますよ！」何でもはできないと思うけど・・・小林くんが笑顔で言うので「そうかも」って思っちゃうなあ。

はあ、一日中事務仕事で疲れた～。さて、安い牛乳買って子どものお迎えに行くか。

(事実にもとづいた創作です。毎月初め頃は、こんな感じです。言葉や制度についての質問は派遣部までどうぞ。)

派遣部コーディネーター: 合田晃

がつみっか ど たいかい なか
6月3日(土) 「カラオケ大会」へのバスの中で・・・

知的障害の利用者向けのイベントで、三鷹市役所横のビッグエコーに行きました。ガイドヘルパーの資格取得を目指す実習生も同行し、総勢23名の大所帯～(^_^)パーティールームを貸し切って、わいわいがやがやと、みんなで楽しみました～♪ビッグエコーへの移動手段はバス。「乗車に時間がかかり乗客が迷惑顔をする」のが、集団で出かける時のいつもの光景なのですが、今回は先頭でバスに乗った僕が、「大人数で乗るので、乗車に時間がかかります、すみません。」と乗客に一声かけました。



そうすると、乗客が笑顔で挨拶してくれたり、バスの雰囲気柔らかくなったように感じました。この「すみません」って、決して「障害者がバスに乗ることについて」ではなく、「乗車人数が多く時間がかかることについて」です。

「すみません」が誤解を受けないように、気をつけて使わないとな～と思った出来事でした。

南雲さんから「健全者が勝手に判断して謝るな」って、怒られそうだけど・・・

エンパワーメントの視点で支援する



ぼっぷの相談員の半数は、障がいのある当事者です。出来る限り、相談者に寄り添った視点を持ち、支援にあたりたいと思っています。

例えば、ぼっぷでは、こんなことがよくあります。障がいのある人にとって、市役所だったり、福祉施設だったり、初めて行く場所は不安がいっぱい。その気持ちに寄り添い、彼らに不安を感じさせないように、一緒に行動することを心掛けます。相談者には、知的障がいの方もいれば、車いすの方もいるし、その他色々な障がいのある方がいらつやいます。

私たちぼっぷの相談員は、車いすを使用しています。相談者にとって歩くことに問題なくても、私たち相談員は、雨の日はカッパを着て動かなければならないし、公共交通機関に乗る際も時間が掛かります。時には、相談者の足手まといになってしまうことすらあります。それでも私たちは、彼らと一緒に行動します。

色々な場所に同行していき、相談者が外出するのになれた頃、相も変わらずカッパを着たり、公共交通機関に乗ったりする私たちの姿を見て、「ああ、この人たちも、こんなふうにくふうしたり、人の手を借りながら何とかやっているんだ」ということに気が始めます。「ならば、自分だって出来る！やろう！」と言う気持ちが少しずつ芽生えてきます。そして、彼らは私たちにこう言います。

「もう大丈夫。ここからは自分で行くから。」と。

私たち相談員は、一抹の寂しさを感じますが、彼らが自分たちの生活に自信を持つてくれたことに喜びを感じ、私たちは少しずつ彼らから離れていく準備を始めます。

私たちぼっぷでは、そんなふうエンパワーメントをしながら支援をしています。

(ぼっぷ当事者相談員 宮城永久子)



新入職員紹介



ぼっぷで週4日勤務しています、工藤まやと申します。

今までは福祉とはあまり関係のない、ピザ屋や食堂でアルバイトをしてきました。なのになぜ、ぼっぷにいるかという・・・

学生の時に老人ホームでボランティアをしたことがあり、なんとなく漠然と福祉に興味があったので、ガイドヘルパー養成研修を受講しました。そのときの合田さんの分かりやすく引き込まれる講義を聴き、

「おもしろそう！楽しそう！」とますます興味を持ち、すぐにインミタカへ面接に行きました。無事に登録でき、ヘルパーとして働いていたときに、「ぼっぷでも働いてみない？」と声をかけて下さったことがきっかけです。

ぼっぷもインミタカも、職員たちの冗談が混じった会話や、来てくれた方のおしゃべりで、いつも楽しく明るい場所だと感じています。休みの日は、ヘルパーとして介助もしています。

どうぞよろしくお願ひいたします。



はじめまして

福祉を知っていても、知らなくても感動できる

正直、ここで「障がい者」がテーマの映画をお勧めするのは、とーっても難しいです。

バリバリの福祉職の人からは「現場はこんな甘くない！リアルじゃない！」と言われ、

福祉を知らない友達からは「あー難しかった…(沈黙)」と言われることがしばしば。

そんな映画選びが究極に難しい中、両者から「これはよかった！」と太鼓判だったのが、この「奇跡の人」。

みなさんご存じ、ヘレンケラーのお話です。

「ヘレンケラーすごい！」「サリバン先生エライ！」という映画ではなく、ヘレンケラーが「言葉の意味」や「心の底から人を信頼するキモチ」をつかむ瞬間までのおはなし。

ほんとうは、障がいそのものよりも、人と人との間にある「みえない何か」が本当の「障がい」だと気づかされるんです。

だから、みんなで「あーいい映画だった」と終わられるんですね。決して「障がい者はスゴイ」と変に美化されたり、「こうあるべき」と正しさを楯にした暴力で終わらないから、私もすき(笑)。夏の夜に、よろしくどうぞ～♪ (ぽっぷ: 酒井泰葉)



私も車椅子に乗ってます (ぽっぷ: 南雲 潤)

先日、「格安航空会社が、車椅子利用者にタラップを自力で一段ずつ登らせた対応を批判され、謝罪した。今後は階段昇降機の導入を決めた。」という事件があった。事の流れはこんな感じ。

関連記事を読むと「利用者が必要な事前連絡をしなかった」「事前連絡をしていたとしても断られていた」とか書かれている。私がこれまで飛行機に乗ったのは仕事で4回だけ。元々が出不精なので、今後の搭乗予定はない。

誰かが声をあげなければ対応は変わらない。その一方で、低料金なのだから設備不足は仕方がないと思う自分もいる。お前はどっちの味方?となってしまうけど、結局は「低料金」「高サービス」が一番なんだよね。お互いが気持ちよい関係になりたいよお。

インみたか通信 感想



今回の通信はいかがでしたか?

みなさまからのご感想が、わたしたちのエネルギーです!

左記、**インみたか 派遣部**までお寄せください。

(メール・電話・FAX・直接来所して、などどんな方法でも!)

目次

- P1 法人のページ 人はそれをサービスと言うけれど
- P2 法人のページ どう書く? 障害? 障がい?
- P3 法人のページ 津久井やまゆり園の事件から一年…。
- P4 法人のページ リレートーク 地域で生きる
- P5 法人のページ 後援会ありがとう/お花見
- P6 派遣部のページ 派遣部の日記
- P7 ぽっぷのページ ぽっぷのある風景/新入職員紹介
- P8 ぽっぷのページ 映画紹介/私も車椅子に乗ってます

三鷹市障がい者相談支援センター ぽっぷ

〒181-0013 三鷹市下連雀4-15-18-2階
 電話 0422-71-0901 FAX 0422-26-5141
 メール poppu@dream.ocn.ne.jp
 ホームページ <http://www6.ocn.ne.jp/~poppu/>

障害者生活支援センター インみたか 派遣部

〒181-0013 三鷹市下連雀4-15-23-A102
 電話 0422-71-0902 FAX 0422-24-6266
 メール in-mitaka@iaa.itkeeper.ne.jp
 ホームページ <http://www6.ocn.ne.jp/~poppu/inmitaka/index.html>

障がい者計画相談センター くも

〒181-0013 三鷹市下連雀4-15-23-A102
 電話 0422-26-7229 FAX 0422-26-7229